

カンボジア労働省 TVET システム 講習会実施報告

講習会実施期間 2014年11月24日(月)～11月26日(水)

講習会場 National Technical Training Institute(NTTI) : 国立技術訓練学校

受講者数 47名 (別添参加者名簿参照)

講習会講師 柿栖 昇
村上 武史

2014年11月24日(月) 開会式

- 08:30-08:45 講習会 開会式(司会進行:労働省職員)
- 08:45-09:00 開会の挨拶(公益財団法人 CIESF 篠原副理事長)
- 09:00-09:20 開会の挨拶(カンボジア職業訓練省ピッチ・ソポワン長官:別添参照)
- 09:20-09:35 開会式終了、休憩

第一日目の講義状況の概要

- 09:35-09:45 講習会の講師自己紹介(柿栖、村上)
- 09:45-11:00 講義:官民連携と指導員業務①(担当:柿栖)
- 11:00-11:15 休憩
- 11:15-12:30 講義:官民連携と指導員業務②(担当:柿栖)
- 12:30-14:00 昼休憩
- 14:00-15:00 グループ討議(担当:柿栖、村上)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-15:45 グループ討議発表と質疑

第一日目の講義は、「官民連携と指導員業務」を表題として、

- ①日本が取り組まなければならない課題として日本の現状について
- ②職業技術教育に係る関係省庁・組織・公共職業訓練(職業能力開発促進法、予算、公共職業訓練施設と訓練コース、職業訓練基準、カリキュラム)
- ③企業と公共職業訓練施設(企業の人材育成状況、企業と公共職業訓練施設との連携とその在り方、連携ツール)
- ④職業訓練コース管理(訓練実施にかかる機能、管理サイクル、機能と責任とその関係者)
- ⑤指導員業務(業務分掌、業務遂行のための委員会制度、指導員育成システムと期待される指導員像、指導員の業務、指導評価)などについて行われた。

午後のグループ討議では、3グループに分かれ

- ①「企業との連携を行うためには、どのような活動をすればよいか」

②「職業訓練指導員を育てるためには、何をすればよいか」について行われた。

グループ討議の最後に各グループのリーダーから発表が行われ、その主な概要は

①については、・政府と民間が共同で標準カリキュラムを作成する ・各訓練施設に民間企業との連携を行う部門を設置する ・企業と訓練施設の交流を積極的に行う などであった。

②については、・指導技法(ペダゴジー)の研修を受けさせる ・基本を身に付けたNTTIの卒業生を採用する ・民間での研修を受けさせる などであった。

2014年11月25日(火)

第二日目の講義状況の概要

09:30-10:45 講義：訓練コース新設とカリキュラム編成①(担当柿栖)

10:45-11:00 休憩

11:00-12:15 講義：訓練コース新設とカリキュラム編成②(担当柿栖)

12:15-13:45 昼休憩

13:45-14:45 グループ討議(担当：柿栖、村上)

14:45-15:00 休憩

15:00-15:30 グループ討議発表と質疑(担当：柿栖、村上)

第2日目の講義は、「訓練コースとカリキュラム編成」を表題として、

①職業訓練法と訓練基準見直し(職業能力開発促進法の特徴、訓練施設の責任、職業訓練基準の見直し改定とそのフロー)

②モデルカリキュラム(カリキュラム作成とその工程)

③地域訓練ニーズとカリキュラム編成(カリキュラム改変規則、訓練管理委員会、カリキュラム委員会、企業訪問、企業聞き取り調査内容)

④作業標準書と仕事(仕事マップと作業標準書、トヨタ星取表、作業標準書、仕事マップの作成状況と効果、計画的OJTの実際)などについて行われた。

午後のグループ討議では、3グループに分かれ

①「企業訪問調査票の活用について」

②「研修の第一日目の講義、第2日目の講義のまとめについて」を中心に行われた。

グループ討議の最後に各グループのリーダーから発表が行われ、その主な概要は

①については、・日本から紹介された調査票をカンボジアの状況に編集して活用したい
・指導員が企業へ行ってヒヤリングを行えるように時間を設ける

②については、・日本の職業訓練システムを理解して参考になった ・今日学んだことをカンボジアで適用できるように修正して、使いたい ・指導技法の研修を受けてみたい。

2014年11月26日(水)

第三日目の講義状況の概要

09:30-10:45 講義：ものづくりセミナーの概要と目的(担当：村上)

- 10:45-11:00 休憩
11:00-12:15 模擬演習：演習準備（担当：村上、柿栖）
12:15-13:45 昼休憩
13:45-14:45 模擬演習：模擬生産（担当：村上、柿栖）
14:45-15:00 休憩
15:00-15:30 模擬演習のまとめと質疑（担当：村上、柿栖）
15:30-16:00 講習会修了証書授与、記念撮影、閉会

第3日の講義は、「日本のものづくり：研修の概要と目的編」として、

- ①ものづくりセミナーの概要と目的（コース開発の経緯、コースの訓練手法と受講効果、ものづくりの基本・自律的問題解決・リーダーの役割とチームワーク、カンボジアで実施が考えられるコース案、写真で追うコースの実施例）
- ②模擬生産演習準備（グループ編成とリーダー選出、模擬生産演習手順、生産計画書、工作図、検査成績書、紙飛行機折習得、標準作業検討、作業手順決め、作業担当と作業編成、生産紙飛行機測定と記録方法）
- ③模擬生産（手持ちと手待ち、試し流し、生産の開始準備、第一生産実施）
- ④模擬生産演習のまとめと質疑（グループリーダーによる生産結果発表、改善に向けての検討、模擬生産結果総括、質疑）などについて行われた。

模擬生産演習(第一生産)では、5グループに分かれ、それぞれのグループの生産計画は、講義時間を考慮して、また、コースを体験する観点から生産時間15分、生産台数35機の第一生産のみの設定で行われた。

所感

この度の講習会においては、日本語版講義用参考資料とそのPPTを東京のCIESEF事務所に渡し、それらをカンボジアのCIESEF事務所でクメール語に翻訳をいただいたものを使って講義が行われました。これらには詳細な図表などがあり、全てのものにおける翻訳は困難かと思っておりました。

しかしながら、日本語からクメール語への表現が難しいと思われるところまで、翻訳が行われていたため、大変講義を順調に進めることが出来ました。

受講者の方々は、大きく分けてカンボジア職業訓練省所属のグループ、教育・訓練現場の管理職に属するグループ、それに現場で教えている先生たちの3グループ構成でした。

開講式でのカンボジア職業訓練省ピッチ・ソポワン長官のスピーチに応えたのか、講義中の私語もなく、受講態度は非常によく、質問も積極的なものがありました。

また、講演会の運営を行ったカンボジアCIESEF事務所の方々の努力もあり、3日間の期間中、雰囲気の良い講義しやすい環境を整えて頂きました。

講義においては、日本の職業訓練の歴史からカンボジアの職業訓練に参考になると思われる事柄を中心に行われました。その中で特に強調されたのは、企業が必要としている人材を如何に職業訓練で養成していけばよいかでした。

今回の講義内容は、広く全般にわたってのものでしたが、その中で、職業訓練基準の問題、企業と職業訓練施設とのかかわりや連携の問題、先生に必要な指導方法にかかわる問題など職業訓練を行う上で基礎となるテーマに絞って講習会を行うことが必要と感じました。

三日目の「日本のものづくり」では、このセミナーの紹介と体験を目的とする範囲で行われました。しかし、このセミナーは、カンボジアに進出する企業の人材育成に必要な要素を多く含むもので、カンボジアの先生方に習得してもらい、習得した先生方による訓練生への指導を行えることが好ましいと考えます。そのため、更なる講習会の開催を望むところです。

この度の三日間の講習会を通して、プノンペンの街に若者が多く活気があること、穏やかな人柄、受講態度と習得意欲の高いことなどから、カンボジアの人達が努力を続けることによって、カンボジアの将来に明るいものを感じる事が出来ました。



CIESF 篠原副理事長スピーチ



職業訓練省ピッチ・ソポワン長官スピーチ



受講風景



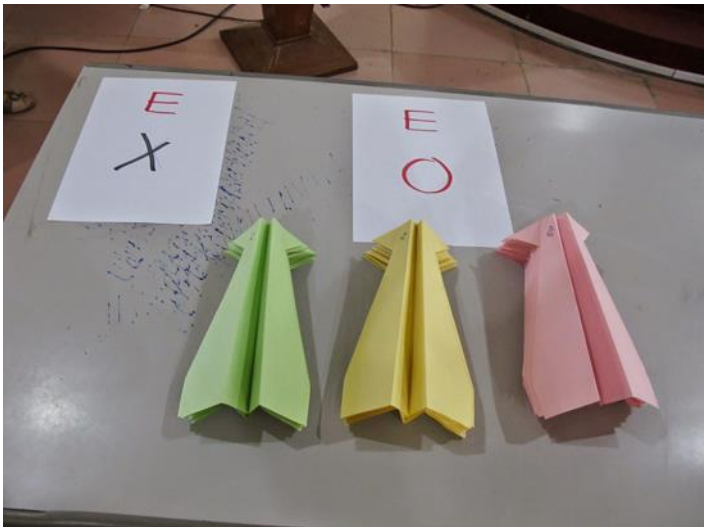
熱弁を揮う柿栖講師



グループ討議風景



模擬生産演習風景



模擬生産紙飛行機



受講証書授与



受講証書を手にした皆さん



講習会を支えた CIESF 事務所の皆さんと講師